

新会長挨拶

日本組織適合性学会会長
東京医科歯科大学難治疾患研究所難治病態研究部門分子病態分野
木村 彰方

このたび、第13回日本組織適合性学会総会(大阪)において、猪子英俊前会長の後を受けて会長に指名されました。身に余る大役ですが、理事、評議員、会員諸兄のご支援、ご協力をいただき、学会の発展に努める所存ですので、よろしく申し上げます。

HLAをめぐる研究はこの数年で大きく進歩しました。ご存知のようにヒトゲノムプロジェクトでゲノムの塩基配列が決定され、次いで全長cDNAプロジェクトやゲノム多様性プロジェクトによって、遺伝子の発現状況や多様性のあり方に関する情報が集積しています。これらの情報を基にした疾患の遺伝的要因解析(疾患感受性領域や疾患関連遺伝子の同定)や病態形成における遺伝子発現解析(発現プロファイルの検討)が行われています。HLAの世界では従来から疾患感受性との関連研究が行われてきましたが、ヒトゲノムプロジェクトによる疾患関連研究は、極めて大規模になったとは言え、その方法論はまさにHLA研究で培われたものであり、HLA解析の歴史的経緯を辿っています。

HLAタイピングで疾患の診断が出来ないように、ゲノム多様性の解析から疾患の診断に直接応用可能な知見が得られるとは思えませんが、疾患感受性リスク評価や疫学的介入による集団レベルでの疾患管理は可能になると考えられます。一方、HLAをマーカーとして疾患感受性との関連が分かったとしても、HLA内のどの遺伝子がどのようにして疾患感受性を決定するかについては不明なことが残されているように、他の領域についても遺伝マーカーが同定されたことは疾患の原因を明らかにしたことに必ずしも繋がりません。また、HLA研究の世界ではある意味常識的ではありますが、ある疾患とある遺伝マーカーとの有意な関連が報告されたとしても、それが追試で確認されず、真の関連とは考えられない(統計学的なエラーである)ことも多々あります。疾患研究では、どの遺伝子がどのような状況下でいかにして疾患のいかなる病態をどのように規定するかの解明なくしては真の関連解明とは言えず、治療や予防に繋がる病態修飾法の開発などの次のステップに進めません。その意味でHLA研究は、関連研究で明らかになった疾患感受性の遺伝的制御機構を、先陣を切って解明する使命を帯びていると考えます。

ヒトゲノム解析から推定される全遺伝子数は3,000 Mb中に約22,000個であると最近報告されました。HLA領域には4 Mb中に120以上の遺伝子が存在しますので、遺伝子密度がきわめて高い領域であると言えます。しかしながら、それら遺伝子の機能については全てが明らかになっているわけではなく、タンパクレベル、細胞レベル、個体レベルでの機能解析が必要です。それと同時に、HLAクラスI遺伝子群、クラスII遺伝子群、TAPやLMP遺伝子群、TNFやLT遺伝子群などに見られる機能的連関が、その他のHLA領域遺伝子群にもあるかどうか、あるとすればいかなる連関であるのかを解明することが、HLAのより深い理解をもたらします。また、HLA領域は遺伝子密度が高いと同時に多様性に富むことから、進化学的にも興味ある領域です。種を越えた配列比較や遺伝子発現比較は進化のメカニズムを解明する糸口を与えてくれるかも知れません。このように、HLAには解明すべき課題が山積みです。

一方、移植医療におけるHLAタイピングの有用性は確立していますが、今後は癌の抗原特異的免疫療法、免疫関連疾患の抗原特異的免疫制御療法などの医療にもHLAタイピングの実用が広まって行くと思われます。臨床現場で用いる以上、タイピング技術の向上と精度の維持は必要不可欠ですし、常に最新の知識を取り入れる努力が必要です。ご存知の通り、HLA学会では技術者および指導者の認定制度を設立し、今年から技術者筆記試験も始まりました。以前より行われているQCWSも大会期間中に行われることとなりました。大会初日を出

来るだけ土日あるいは祝日に設定し、その日に QCWS 集会や技術者講習会を行うことにより、検査実務を担当する多忙な会員諸兄が、最新の知識を発表、取得する場としての学会に出席しやすい環境を整える努力を重ねています。今後とも認定制度に関連した学会行事の内容を充実させ、社会に貢献する HLA 学会を目指したいと考えます。

昨今では、ライフサイエンス研究の目覚ましい進歩があり、生命倫理や研究倫理が特に問われる時代になっています。数々の研究に関する倫理指針が施行されていますし、2005年からの個人情報保護法案の施行に伴って、研究倫理指針の法制化も念頭に置かれていると聞き及んでいます。胚性幹細胞の取り扱いについては既に法制化がなされており、それに伴ってガイドラインが策定され施行されました。当学会でもヒトを対象とした研究が数々行われているところですので、それらのガイドラインを遵守しつつ研究を実施することが必要です。これまで当学会では、倫理問題検討ワーキンググループにおいて学会活動に関連する倫理的諸問題への対応を検討して来ました。このほど、外部委員にも加わっていただく倫理問題検討委員会を学会内に設置し、引き続き検討を行って行きます。

さて、会員諸兄もご承知のように、当学会が会員名簿の管理、会費の徴収、学会誌の発送と保管等の業務を委託していた(財)日本学会事務センター(以下、学会事務センター)が平成16年8月17日に倒産しました。学会事務センターは文部科学省所轄の財団法人であり、平成16年度当初において300以上の学会が業務委託を行っていた組織であるため、それが倒産するなどとは信じがたい出来事ですが、いわば預かり金制度を悪用した放漫な運営により倒産し、当学会を含む多くの学会が総額11.5億円もの被害を受けました。理事会では学会の財産を保全すべく、倒産に先立つ平成16年7月23日に学会事務センターに預けていた学会の財産を返還するよう申し入れましたが、結局返還されず約420万円の損害を被ってしまいました。新執行部としては、学会事務センター倒産に至る事実関係を解明するとともに、可能な限り債権を回収する所存ですが、残念ながらほとんど回収出来ない見通しです。今回の出来事は当学会のような中小学会(会員数300-1,200)に特に甚大な被害を与えたものであり、財政的再建に数年を要すると考えられる学会もあります。中小学会が萌芽的、先端的、専門的、学際的な研究領域の発展を担っていることに鑑みると、まさにわが国の学問の危機であるとも言えます。当学会も経済的な被害は甚大ですが、事務局経費節減等によって可及的速やかな財政的再建をはかるよう執行部一同で取り組んで行く所存です。

財政的に苦しい状況であっても、学会のアクティビティを保ち、さらに発展する方策をとることが必要です。昨年度より2年間に渡り(株)TFB社よりの寄付を原資としてTFB学術奨励賞を実施して来ましたが、今期より新たに日本組織適合性学会学術奨励賞を設立し若手会員の研究を奨励します。また、HLAを中心として多様な研究領域を連結した学際的研究を進め、基礎と臨床を結ぶ橋渡し学会となるべく努力を重ねたいと思います。

会員諸兄にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、一丸となって学会の活性化と発展を目指すべく、よろしくご協力のほどお願いします。

(平成16年12月1日)

日本組織適合性学会 会告

日本組織適合性学会会則第 11 条, 第 12 条に基づき, 評議員による理事選挙の結果, 新しい理事 9 名, 監事 2 名が選出されました。また, 会長が赤座達也評議員を指名理事として推薦し, 理事会において本件が承認されました。平成 16 年 9 月に開催された理事会において以下の事案が決議され, 評議員会並びに総会において承認されましたのでお知らせ致します。

1. 新理事・監事(任期 2 年)

理事氏名	担当
木村 彰方	会長, 学術奨励賞
赤座 達也(指名理事)	会計, 会則
猪子 英俊	将来構想検討, 渉外(海外)
五條堀 孝	渉外(国内)
佐治 博夫	標準化
佐田 正晴	認定制度
十字 猛夫	事務局
徳永 勝士	編集, 倫理問題検討
西村 泰治	教育
前田 平生	選挙管理
監事氏名	担当
片桐 一	監事
笹月 健彦	監事

2. 倫理問題検討委員会(新設)について

徳永勝士理事を委員長として, 本学会に倫理問題検討委員会を新たに設置しました。学会が主導して行なう研究活動に纏わる生命倫理の諸問題について検討いたします。

3. 学術奨励賞(新設)について

平成 15 年度より行なわれてきた株式会社 TFB から本学会に対する『HLA 及びこれに関わる分子生物学分野の研究, 技術の開発に対する助成』による学術奨励賞が終了しました。

それに替わり, 平成 17 年度より若手会員の研究助成を目的とした日本組織適合性学会学術奨励賞を新設します。木村彰方理事を委員長として, 学術奨励賞選考委員会を新設します。

第14回 日本組織適合性学会大会のご案内

第14回 日本組織適合性学会大会
大会長 西村 泰治

早春の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第14回日本組織適合性学会大会を下記の要領にて開催いたします。本大会では「MHC研究：基礎から臨床応用へ(仮題)」をメインテーマにしたいと考えております。多くの皆様方の御参加を、お待ちしております。

会 期： 2005年10月2(日)～4(火)

会 場： 熊本市民会館(10月2日)

熊本市桜町1-3

TEL: 096-355-5235

FAX: 096-355-5239

KKR ホテル熊本(10月3日～4日)

熊本市千葉城町3-31

TEL: 096-355-0121

FAX: 096-355-7955

HP: <http://www.kkr-hotel-kumamoto.com/>

大会内容：以下の学術プログラムを計画中です。なお下記の1.および2.の中の指定された講演の受講をもって、指導者認定あるいは認定更新に必要な講習の受講に代える予定です。詳細につきましては、追って学会誌MHC(第12巻第2号、9月発送号)に掲載される予定ですので御参照ください。

1. 特別講演・教育講演(タイトルは変更される可能性があります。)

- James MaCluskey (Professor, Department of Microbiology and Immunology, Melbourne University)
“Impact of natural HLA Class I polymorphism on antigen presentation:

The power of one in HLA function and transplantation matching”

- 笹月健彦(国立国際医療センター・総長)
『ゲノムから疾病へのアプローチ：ABO, HLA そして全ゲノム』
- 中尾眞二(金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学講座・教授)
『免疫療法としての同種造血幹細胞移植』

2. シンポジウム・ワークショップ(計画中)

- 免疫応答とMHC
- 造血幹細胞移植と組織適合性

3. 一般演題

一般演題募集要項

- 1) 発表形式：発表は口演またはポスターにより行います。演者は本学会員であることが必要です。
発表形式(口演またはポスター)についてはプログラム委員会に、一任させて頂きたく存じます。
- 2) 申し込み方法 学会ホームページにも掲載する予定です。

① E-mailによる演題申し込み

- 演題の申し込みは、原則としてE-mailでのみ受け付けます。
件名は「14JSHI 演題」とし、①抄録、②演題申し込み書の2つのファイルを、添付書類にて、下記の第14回大会事務局(senjusat@gpo.kumamoto-u.ac.jp)あてに送って下さい。

② 抄録の様式(下記の見本を参照ください。)

- 抄録は Microsoft Word の文書ファイルを用いて作成ください。
- 演題名, 演者(発表者に○印), 所属(正式名称が長い場合には省略所属名), 本文の順で作成してください。本文は 800 字以内を厳守し, 目的, 方法, 結果, 考察などに分類して記載してください。フォントは MS 明朝の 11 ポイントで作成ください。英数字は半角文字を使用し, 2 文字で 1 文字と数えます。また μ, γ などのギリシア文字は, Symbol を利用してください。

③ 演題申し込み書の作成(下記の見本を参照してください。)

- 抄録とは別に, 演題名, 演者, 所属, 代表者の連絡先住所, 電話番号, FAX, E-mail アドレスを記載したファイルを作成してください。

3) 抄録の見本(目的以下の本文は, MS 明朝の 11 ポイントで 800 字以内)

食道癌拒絶抗原 PP-RP 由来の HLA-A24 拘束性 T 細胞エピトープの同定

○西村泰治¹⁾, 吉武義泰^{1,2)}, ○○○○¹⁾, ○○○○³⁾, 中村祐輔³⁾, 中面哲也¹⁾

¹⁾ 熊大・院医薬研究部・免疫識別学, ²⁾ 顎口腔病態学, ³⁾ 東大・医科研・ヒトゲノム解析センター

【目的】 食道癌において, 腫瘍拒絶抗原を同定する。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【方法】 食道癌組織において, 9,216 種類の遺伝子について cDNA マイクロアレイ解析を行い, ○○○

【結果】 食道癌患者 26 名中 22 人で非癌部より癌部で高発現する, 新規ヒト癌抗原 PP-RP を同定した。

【考察】 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

4) 演題申し込み書の見本

演題名: 食道癌拒絶抗原 PP-RP 由来の HLA-A24 拘束性 T 細胞エピトープの同定

演者: ○西村泰治¹⁾, 吉武義泰^{1,2)}, ○○○○¹⁾, ○○○○³⁾, 中村祐輔³⁾, 中面哲也¹⁾

¹⁾ 熊大・院医薬研究部・免疫識別学, ²⁾ 顎口腔病態学, ³⁾ 東大・医科研・ヒトゲノム解析センター

連絡代表者の氏名: 西村 泰治

代表者の連絡先住所: 〒860-8556 熊本市本荘 1-1-1

熊本大学大学院医薬研究部・免疫識別学分野

電話番号: 096-373-5313 FAX 番号: 096-373-5314

E-mail: mxnishim@gpo.kumamoto-u.ac.jp

4. 演題申し込み締め切り: 2005 年 5 月 31 日(火)必着

5. 演題受理通知および採択通知

演題受付後 7 日以内に, E-mail または FAX にて演題受理を通知いたします。申し込んだにも関わらず, 演題受理の通知がなかった場合には, 下記の事務局あてに, お問い合わせください。演題発表形式(口演またはポスター)および発表日時につきましては, 2005 年 8 月下旬頃までに, E-mail または FAX にて通知いたします。

2005 年度学術奨励賞の募集

2005 年度学術集会大会に応募された一般演題の中から, 特に優秀と認められた演題の筆頭演者に学術奨励賞

が授与されます。応募を御希望の方には、本誌別頁に記載されている「2005年度学術奨励賞の募集要項」を御参照のうえ、奮って御応募下さい。

参加登録費

下記のように、事前登録を行います。

	理事・評議員	会 員
事前登録 (2005年8月31日迄)	¥8,000	¥6,000
2005年9月1日以降 あるいは当日参加	¥10,000	¥8,000

事前登録参加者は下記の銀行口座に振り込みを、お願いいたします。大会事務局より領収書を郵送いたしますので、学会当日に御持参ください。参加証は、学会当日に受付にてお渡しします。なお、振込の際に氏名の後に会員番号を必ずご記入下さい。

【振込先】 肥後銀行 本店(普通)口座番号 2327028
第14回日本組織適合性学会大会 大会長 西村 泰治(にしむらやすはる)

懇親会

2005年10月3日(月)19時頃より KKR ホテル熊本にて懇親会を開催いたします。

宿泊・交通の御案内

本大会に御参加の皆様には、学会旅行センター熊本が宿泊、熊本学会バックの手配をいたします。下記アドレスにアクセスいただき、お早めにお申し込み下さい。交通に関しましては各自お手配下さい。

連絡先: 860-0811 熊本市本荘 1-1-1 熊本大学病院恵和会内
TEL: 096-363-0865 FAX: 096-363-0867 E-mail: tabi@higo.co.jp
<http://higo.co.jp/jshi-hotel/> (2005年6月オンサイト予定)

大会事務局

本大会に関するお問い合わせ、ならびに一般演題のお申し込みは、下記大会事務局宛にお願いいたします。

〒860-8556 熊本県熊本市本荘 1-1-1
熊本大学大学院医学薬学研究部・免疫識別学分野
第14回 日本組織適合性学会大会事務局: 千住 覚
TEL: 096-373-5313(直通) FAX: 096-373-5314 E-mail: senjusat@gpo.kumamoto-u.ac.jp

その他

- 2005年度学術奨励賞の募集、QC ワークショップ、認定制度講習会につきましては、本誌別頁を御参照ください。
- 大会情報は今後刊行されます MHC 誌上、および日本組織適合性学会ホームページで更新いたします。

日本組織適合性学会 2004 年度 TFB 学術奨励賞選考結果について

日本組織適合性学会
学術奨励賞担当理事 木村 彰方

1. 2004 年度 TFB 学術奨励賞の公募経緯

(株)TFB 社より本学会における学術奨励を目的として寄付頂いた助成金を活用して、2003 年度に(株)TFB 学術奨励賞を設立した。2 回目となる本年度は、以下の通り選考した。

学術奨励賞は、第 13 回日本組織適合性学会大会に応募された一般演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者に与えられるものとした。応募資格は、1) 筆頭演者は本学会の正会員であり、かつ 2003 年度までの会費を納入済であること、2) 筆頭演者は 2004 年 9 月 23 日時点で満 45 才未満であること、3) 応募しようとする演題の内容において、筆頭演者が中心的な役割を果たしていること、4) 応募しようとする演題の内容が、本学会にふさわしく、かつ未発表であることとした。

2. 選考経緯

TFB 学術奨励賞には、5 月末日迄に 11 件の応募があった。これらを含む第 13 回日本組織適合性学会大会一般演題の全抄録 (53 題) について、MHC 編集委員および編集協力者に 5 段階での採点を依頼した。返送された採点結果を集計し、優秀賞 5 件を選出した。優秀賞演題の得点はいずれも一般演題を含めた上位 3 分の 1 に入っていたが、各演題の得点は僅差であったことから、本年度は最優秀賞の選出は行わず、優秀賞のみとした。

3. 選考結果(順不同)

氏名(所属): 下嶋典子(奈良県立医科大学法医学教室)

演 題: 抹消血および胎盤 NK 細胞における HLA-E tetramer を用いた receptor 解析

氏名(所属): 橋本奈美(東海大学医学部基礎医学系)

演 題: LR-PCR 法による HLA クラス I 領域の多様性解析

氏名(所属): 高須美和(東京大学医学部人類遺伝)

演 題: HLA-A*3303-B*4403-DR*1302 ハプロタイプにおける HLA クラス I 領域のゲノム塩基配列

氏名(所属): 椎名隆(東海大学医学部基礎医学系)

演 題: 比較ゲノム解析による霊長類 HLA-B/C 祖先領域の推定

氏名(所属): 清水佐良子(東海大学医学部基礎医学系)

演 題: HLA クラス I 領域に位置する DNA 修復関連遺伝子 MDC1 の比較ゲノム解析および比較機能解析

4. 受賞講演

優秀賞演題は、第 13 回日本組織適合性学会大会中の 9 月 25 日に、TFB 学術奨励賞優秀賞受賞者口演として発表された。

2005年度 学術奨励賞募集のお知らせ

学術奨励賞選考委員会
委員長 木村 彰方

会員の皆様

本年度より、日本組織適合性学会学術奨励賞を創設し、若手会員への研究助成を行うこととしました。以下の要領で募集しますので、奮って御応募下さい。

1. 助成内容

2005年度学術集会大会に応募された一般演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者に学術奨励賞を授与します。授与件数は若干件で、1件につき10万円程度の助成金授与を予定しております。

2. 応募資格

助成金応募にあたっては、以下の条件のすべてを満たしていることが必要です。

- 1) 筆頭演者は本学会の正会員であり、かつ2004年度までの会費を納入済であること
- 2) 筆頭演者は2005年10月4日時点で満45才未満であること
- 3) 応募しようとする演題の内容において、筆頭演者が中心的な役割を果たしたこと
- 4) 応募しようとする演題の内容が、本学会にふさわしく、かつ未発表であること

3. 応募方法

大会の演題抄録募集とは別途の手続きで行いますので、以下の書類を次のアドレス宛にメール添付で送って下さい。(HLA 学会事務局, Email; jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp)

必要書類

1) 抄録

一般演題に応募した抄録

(Word形式で保存しファイル名を応募者名抄録.docとする。{例; 木村彰方抄録.doc} Wordが使えない場合はテキスト形式で保存しファイル名を応募者名抄録.txtとする)

2) 申し込み用紙

演題名, 演者(全員), 所属(全員)と, 応募者(筆頭演者)の連絡先住所, 電話番号, FAX, e-mailアドレス, 生年月日, 年齢を記入したもの

(Word形式で保存しファイル名を応募者名申込.docとする。Wordが使えない場合はテキスト形式で保存しファイル名を応募者名申込.txtとする)

4. 応募締め切り

2005年5月31日(必着)

(6月初旬までに応募ファイル受領を連絡しますが、受領連絡がない場合は、学会事務局までお問い合わせください)

5. 選考および結果通知について

応募された演題についてMHC編集委員および編集協力者等が予備審査を行い、その結果を参考にして学術

奨励賞選考委員会にて選考を行います。結果は、8月中旬頃までに応募者宛に通知致します。

6. 助成金の使途

使途について特に制限はありませんが、学術奨励賞であることの趣旨をご理解の上、適切に使用ください。なお、使途とその内訳を後述の報告書に記載するものとします。

7. 受賞者にかかる義務について

- 1) 受賞者は、第14回日本組織適合性学会大会(学術奨励賞受賞講演セッション)において発表を行って頂きます。
- 2) 受賞者は、助成が行われた研究課題についての報告書(様式は別途通知します)を学会宛に提出して頂きます。

8. 助成が行われた研究課題の成果発表について

研究課題の研究成果については、原著論文もしくは総説等の形式にて、学会誌 MHC への積極的な発表をお願いします。

9. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは学会事務局をお願いします。

日本組織適合性学会事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3-10

東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内

Tel; 03-5280-8054, Fax; 03-528-8055, Email; jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp

第9回 HLA-QC ワークショップのご案内

日本組織適合性学会
認定制度委員会
委員長 佐田正晴
QC ワークショップ部会長 木村彰方

前回に引き続き認定制度委員会主催の QC ワークショップ (QCWS) を開催致しますので、下記の通り案内致します。今回は DNA タイピングに加えて、抗体検査についても QCWS を実施することを想定しています。DNA タイピング QCWS についてはこれまでと同様の方法で実施します。抗体検査 QCWS については、希望参加者数(参加施設数)を把握した後に、具体的な実施方法を検討します。また、今回から申し込み方法が一部変更となっていますので、ご注意ください。

記

1. スケジュール(すべて予定ですので、今後変更があり得ます)
平成 17 年 5 月上旬—中旬: サンプル配布(原則として、ラボ単位で配布)
(サンプルの配布は、DNA, 抗体を同時に行う予定です)
平成 17 年 7 月上旬—中旬: データ提出締め切り(原則として、電子媒体による)
2. QC ワークショップ集会
平成 17 年 10 月 2 日(日)午後 第 14 回日本組織適合性学会(熊本)にて
3. 参加費 (QC ワークショップ集会のみの参加も同様)
認定制度との関連で、参加は原則として個人を対象とします。
QC ワークショップにかかる資料代等の実費として、一名 2,000 円を申し受けます。
DNA タイピング、抗体検査のいずれかに参加、どちらも参加、集会のみ参加のいずれも、参加費は同一です。
4. 参加申し込み (QC ワークショップ集会のみ参加する場合も同様に申し込んでください)
学会ホームページ QC ワークショップ部会の URL (<http://jshi.umin.ac.jp/QCWS/>) より申し込み様式をダウンロードし、必要事項を記入後、メール添付にて QC ワークショップ部会まで送付ください。必要事項をメール本文に直接記入して送られても結構です。なお、電子媒体の使用が困難な場合は、別紙用紙に必要事項を記入し、ファックスまたは郵送にてお送りください。
参加費の払い込みをもって参加申し込みの完了と致しますので、参加費は以下の口座に振込んでください。原則として、振込の控えをもって領収書とさせていただきます。集会のみの参加の場合も同様です。参加申し込み(参加費払い込み)の締め切りは、平成 17 年 3 月 11 日(金)とします。
5. 振込口座
郵便振替口座 00160-7-482142
組織適合技術者認定制度委員会
振替用紙の通信欄に、「第 9 回 QCWS 参加費, 参加者氏名」を記載してください。

第9回 HLA-QC ワークショップ参加申込書

(QC ワークショップ集会のみ参加する場合も、同様に申し込んでください)

参加申し込み締め切り(参加費払い込みを含む)は平成17年3月11日(金)です。

申込書の送付先

電子メール使用の場合

Email アドレス: jshiqcws.tis@mri.tmd.ac.jp

郵送または Fax の場合

101-0062 千代田区神田駿河台 2-3-10

東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野 木村彰方

Fax: 03-5280-8055

* * *

以下の通り、第8回 HLA-QC ワークショップに参加致します

1) 参加者

代表*	参加者氏名	参加内容&	所属施設・部署	E メールアドレス#

&; 参加する QCWS 内容の記号 (a; DNA タイピングのみ, b; 抗体検査のみ, c; どちらも, d; 集会のみ)のいずれかを記載してください

*; 参加者の代表(結果の問い合わせなどに対応される方に◎をつけてください)

#; 問い合わせや案内に用いますので、代表者のみの記入で結構です。

2) サンプル (DNA および抗体)の送付先(実際にサンプルを受取る方の氏名)

QC ワークショップ集会のみの参加の場合は記入不要です

住 所: (〒 -) _____

施 設 名: _____

所属部署: _____

氏 名: _____

E-mail: _____, 電話: _____

具体的な QCWS 実施方法, 結果記入方法, 結果返送方法の詳細等を今後検討し, 学会ホームページに掲載するとともに, 代表者宛に連絡します。

組織適合性検査技術者認定制度 平成17年度・認定HLA検査技術者講習会のお知らせ

組織適合性検査技術者認定制度委員会
委員長 佐田 正晴
組織適合性検査技術者認定制度委員会教育部会
部会長 西村 泰治

日時：平成17年10月2日(日曜日) 17時から19時(予定)
場所：熊本市市民会館(熊本市桜町1-3, 電話：096-355-5235) 大会議室
参加費：2,000円(テキスト代を含む)

内容：各講習とも質疑応答を含めて、30分を予定しています。なお講習のタイトルは、今後、若干変更される可能性があります。

- (1) HLA タイピングの基礎： 田中 秀則 先生(東京都赤十字血液センター)
- (2) HLA 遺伝子多型の特徴と意義： 大橋 順 先生
(東京大学大学院医学系研究科人類遺伝学分野)
- (3) 免疫系におけるHLAの役割： 平山 謙二 先生(長崎大学熱研・疾病生態分野)
- (4) 臓器移植とHLA—特に心臓移植において： 福嶋 教偉 先生
(大阪大学大学院医学系研究科・臓器制御外科学)

この講習会は、今後HLA検査技術者認定を取得、あるいは更新しようとする者を対象に実施されますが、それ以外の者であっても自由に参加することができます。受講希望者には、以下の申込書に必要事項を記入し、熊本大学大学院医学薬学研究部・免疫識別学分野宛に FAX (096-373-5314) で平成17年6月24日(金)までに送付してください。あるいは、Eメールで件名を「HLA講習会」とし、申込書の必要事項を書き込んで「midorifu@kaiju.medic.kumamoto-u.ac.jp」宛に、上記締め切り日までに送信してください。テキストは、申込数に応じて作成し、申込者に優先して配布します。そのため当日の申し込み者については、テキストの配布を受けられない場合がありますことを、あらかじめご了承ください。なお参加費は平成17年8月31日(水)までに、指定の郵便振替口座(口座番号：00160-7-482142, 口座名称：組織適合性技術者認定制度委員会)に振込んでください。振替用紙の通信欄に、受講(予定)者の所属、氏名とともに、「平成17年度認定HLA検査技術者講習会受講料」と記載してください。参加費前納者には、事前に講習会資料を送付させていただきます。なお受講申し込みをされ参加費を振り込まれた方で、当日欠席された方には返金できませんことを御了承ください。

平成17年度認定HLA検査技術者講習会 受講申込書

(書き込み可能な申込書を、学会ホームページからダウンロードできますので、そちらも御利用ください。)

FAX 送信先：096-373-5314, Eメール送信先：midorifu@kaiju.medic.kumamoto-u.ac.jp

氏 名：

所 属：

住 所：〒

電 話 番 号：

FAX 番 号：

Eメールアドレス：

HLA検査技術者認定取得予定 なし あり → 平成 年度を予定

平成17年度 認定HLA検査技術者認定試験申請要領

日本組織適合性学会
 会長 木村 彰方
 組織適合性技術者認定制度委員会
 委員長 佐田 正晴

認定HLA検査技術者及び認定組織適合性指導者認定制度規則(以下「規則」といいます。)に基づき認定HLA検査技術者資格認定試験を下記のように実施します。

平成18年度に受験を予定している人は、今年度までに講習会のみを受講しておく必要があります。また、平成19年度以降に受験を予定している人も講習会の受講は可能です。なお、講習会の詳細については本誌別頁に記載の「平成17年度・認定HLA検査技術者講習会のお知らせ」をご覧ください。

1 申請資格: 認定HLA検査技術者の資格認定試験を申請する人は、申請の前年度までに次の各項の認定試験受験資格基準をすべてを備えていなければなりません。

- (1) 日本組織適合性学会(以下「学会」といいます。)の会員歴が通算して3年以上あること。
- (2) 組織適合性検査に関する業務経験が3年以上あること。
- (3) 5年間で技術者履修課程に定められた講習の受講歴があること。
- (4) 5年間で資格審査基準が30単位以上あること。但し、当学会の大会への参加が5単位以上含まれていなければなりません。

なお、(2)の業務とは、組織適合性に関する検査、研究および教育をいいます。

2 申請書提出期限: 平成17年4月22日(金)までに到着するよう簡易書留で下記の事務局へ送付してください。

3 申請書送付先: 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10
 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内
 組織適合性技術者認定制度委員会事務局
 電話 03-5280-8054, ファックス 03-5280-8055

4 提出書類: (1) 認定HLA検査技術者認定申請書と別記様式第1および別記様式第2の1から2の6
 (2) 申請料振り込み用紙の写し
 (3) 80円切手を貼った返信用封筒(申請者へ送れるように住所・氏名などを記載しておいてください)

必要な申請書類は本誌に綴じ込められています。なお、別記様式第2の5の貼付用台紙には学会参加証等のコピーおよび講習会修了証を貼り付けてください。資格審査基準証明書(別記様式2の1)の所属長署名・捺印はなくてもかまいません。

資格審査結果については、6月上旬ごろに郵送で通知する予定です。

申請書類のファイルは、学会のホームページからもダウンロードできます。

5 申請料: 15,000 円

振込先

郵便振替口座: 00160-7-482142

口座名義: 組織適合性認定制度委員会

郵便振替用紙の通信覧に、「技術者資格認定試験申請料」と記入し、その下に、「申請者名」を書き込んでください。

6 実技研修会: 実施日時・場所等は、申請者に希望場所・日時を調査した上で決定し、本人に通知します。

実技研修は、規則第9条2項により、全員が受講しなければなりません(QCWS参加歴の有無によらず、実技研修は必須です)。

実施日時としては、7月から8月中の2ないし3日間(施設によって異なる)を予定しています。なお、開催都市は、東京、神奈川、京都、大阪、福岡を予定しています。

7 実技・筆記試験: 実技試験: 平成17年10月2日(日)時間未定

筆記試験: 平成17年10月2日(日)時間未定

会 場: 熊本市民会館

試験の日時および会場については本人に郵送で6月上旬ごろ通知する予定です。

但し、実技試験は規則第9条4項により、QCワークショップの参加歴がある場合、免除されます。

平成17年度 認定組織適合性指導者資格認定試験申請要領

日本組織適合性学会
 会長 木村 彰方
 組織適合性技術者認定制度委員会
 委員長 佐田 正晴

認定HLA検査技術者及び認定組織適合性指導者認定制度規則(以下「規則」といいます。)に基づき認定組織適合性指導者資格認定試験を下記のように実施します。

平成18年度に受験を予定している人は、今年度までに講習会のみを受講しておく必要があります。また、平成19年度以降に受験を予定している人も講習会の受講は可能です。なお、認定組織適合性指導者講習会は、2005年10月3、4日に開催される第14回日本組織適合性学会大会(熊本)の講演などの受講をもって代えます。その詳細につきましては、9月頃に発刊予定のMHC誌第12巻第2号に掲載されますのでご参照ください。

1 申請資格: 認定組織適合性指導者の資格認定試験を申請する人は、申請の前年度までに次の各項の認定試験受験資格基準をすべてを備えていなければなりません。

- (1) 日本組織適合性学会(以下「学会」といいます。)の会員歴が通算して7年以上あること。
- (2) 組織適合性検査に関する業務経験が7年以上あること。
- (3) 5年間で指導者履修課程に定められた講習の受講歴があること。
- (4) 5年間で資格審査基準が70単位以上あること。但し、当学会の大会への参加が10単位以上含まれていなければなりません。

なお、(2)の業務とは、組織適合性に関する検査、研究および教育をいいます。

2 申請書提出期限: 平成17年4月22日(金)までに到着するよう簡易書留で下記の事務局へ送付すること。

3 申請書送付先: 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10
 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内
 組織適合性技術者認定制度委員会事務局
 電話 03-5280-8054, ファックス 03-5280-8055

4 提出書類: (1) 認定組織適合性指導者認定申請書と別記様式第4および別記様式2の1から2の6
 (2) 申請料振り込み用紙の写し
 (3) 80円切手を貼った返信用封筒(申請者へ送れるように住所・氏名などを記載しておいてください)

必要な申請書類は本誌に綴じ込められています。なお、別記様式第2の5の貼付用台紙には学会参加証等のコピーおよび講習会修了証を貼り付けてください。資格審査基準証明書(別記様式2の1)の所属長署名・捺印はなくてもかまいません。

資格審査結果については、6月上旬ごろに郵送で通知する予定です。

申請書類のファイルは、学会のホームページからもダウンロードできます。

5 申請料: 30,000 円

振込先

郵便振替口座: 00160-7-482142

口座名義: 組織適合性認定制度委員会

郵便振替用紙の通信覧に、「指導者資格認定試験申請料」と記入し、その下に、「申請者名」を書き込んでください。

6 試験: 試験: 平成 17 年 10 月 2 日(日)時間未定

会場: 熊本市民会館

試験内容, 日時, 会場については, 本人に郵送で 6 月上旬ごろ通知する予定です。

平成17年度 認定HLA検査技術者認定試験受験申請書

認定HLA検査技術者認定試験の受験を申請します。

※受験番号

平成 年 月 日申請

フリガナ		性別	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>写真を貼付</p> <p>申請日前6ヵ月以内に撮影されたもので大きさは4×3cm</p> <p>平成 年 月 日撮影</p> </div>
受験者氏名	(印)	男・女	
生年月日		(歳)	
本籍地 (都道府県名)			
フリガナ			
現住所			
電話	()		
フリガナ			
勤務先名			
フリガナ			
勤務先住所			
電話	()	ファックス ()	
電子メール	@		

※受付日

※書類の不備

※受験の出欠

※合否判定

平成16年度 認定HLA検査技術者認定試験受験票

※受験番号

フリガナ		性別	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>写真を貼付</p> <p>申請日前6ヵ月以内に撮影されたもので大きさは4×3cm</p> <p>平成 年 月 日撮影</p> </div>
受験者氏名		男・女	
生年月日		(歳)	
本籍地 (都道府県名)			
フリガナ			
現住所			

注 太枠内の必要事項を楷書で記入すること。※欄は記入しないこと。

資格審査基準証明書

申請日：平成 年 月 日

申請者名			
生年月日	昭和	年	月 日
勤務先			
勤務先住所			
電話番号			
1 日本組織適合性学会会員歴	年	月加入	申請日までの会員歴通算 年
2 QCワークショップ参加歴			申請日までの参加歴通算 年
3 組織適合性関連業務歴 (内訳)			申請日までの業務歴通算 年
4 講習会参加歴	平成	年	月参加
5 総取得単位数			単位
(内訳)	原 著 論 文		単位
	著 書		単位
	学 会 発 表		単位
	学 会 参 加 会		単位
	講 習 会		単位
	QCワークショップ集会参加		単位
	実 技 研 修 会		単位
以上、相違ないことを証明します。			
平成 年 月 日			
			申請者名 ⑩
			所属長名 ⑩
			(職名)

切り取り線

単位内訳書 (原著論文・総説)

申請者名

番号	著者名	題名	発表雑誌名	巻	ページ	発行年

単位内訳書 (著者・総説)

申請者名

番号	著者名	題名	本名	出版社名	ページ	発行年

貼 付 用 台 紙

(この用紙に学会参加証及び講習会参加証の写しを貼付してください。)

A large, empty rectangular box with a solid black border, occupying most of the page. It is intended for pasting copies of conference participation certificates.

単位内訳書 (学会・講習会等の参加)

申請者名

番号	参加学会・講習会等の名称	開催日	開催地	単位 数
計				単位

平成17年度 認定組織適合性指導者認定試験受験申請書

認定組織適合性指導者認定試験の受験を申請します。

※受験番号

平成 年 月 日申請

フリガナ		性別	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>写真を貼付</p> <p>申請日前6ヵ月以内に撮影されたもので大きさは4×3cm</p> <p>平成 年 月 日撮影</p> </div>
受験者氏名	(印)	男・女	
生年月日	(歳)		
本籍地 (都道府県名)			
フリガナ			
現住所			
電話	()		
フリガナ			
勤務先名			
フリガナ			
勤務先住所			
電話	()	ファックス	()
電子メール	@		

※受付日

※書類の不備

※受験の出欠

※合否判定

平成17年度 認定組織適合性指導者認定試験受験票

※受験番号

フリガナ		性別	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>写真を貼付</p> <p>申請日前6ヵ月以内に撮影されたもので大きさは4×3cm</p> <p>平成 年 月 日撮影</p> </div>
受験者氏名		男・女	
生年月日	(歳)		
本籍地 (都道府県名)			
フリガナ			
現住所			

注 太枠内の必要事項を楷書で記入すること。※欄は記入しないこと。

切り取り線

組織適合性技術者認定制度委員会・部会名簿

組織適合性技術者認定制度委員会

委員長：佐田 正晴

副委員長：小林 賢

委員：赤座 達也，石川 善英，猪子 英俊，大谷 文雄，木村 彰方，酒卷 建夫，佐治 博夫，
中島 文明，成瀬 妙子，西村 泰治，徳永 勝士

資格審査部会

部会長：小林 賢

副部会長：田中 秀則

部員：柏瀬 貢一，中島 文明，成瀬 妙子

教育部会

部会長：西村 泰治

副部会長：成瀬 妙子

部員：太田 正穂，小河原 悟，木村 彰方，小林 賢，酒卷 建夫，佐治 博夫，佐田 正晴，
徳永 勝士，中島 文明，平山 謙二，丸屋 悦子

試験問題検討部会

部会長：石川 善英

副部会長：徳永 勝士

部員：石谷 昭子，太田 正穂，小河原 悟，柏瀬 貢一，木村 彰方，小林 賢，中島 文明，
西村 泰治，平山 謙二，丸屋 悦子

QC ワークショップ部会

部会長：木村 彰方

DNA 部門長：酒卷 建夫

DNA 副部門長：安波 道郎

抗体部門長：赤座 達也

抗体副部門長：中島 文明

部員：太田 正穂，柏瀬 貢一，小林 賢，齊藤 敏，酒卷 建夫，田中 秀則，佐田 正晴，
中島 文明，成瀬 妙子，丸屋 悦子

* 新たに抗体 QC を行うため，DNA 部門と抗体部門を併設。

* 部員は DNA 部門，抗体部門ともに共通で企画，解析を担当。

第3回日本組織適合性学会・近畿地方会プログラム

日 時：平成 17 年 2 月 5 日(土) 9 時 30 分開場 10 時～18 時

会 場：参天製薬株式会社本社 阪急千里線

大阪市東淀川区下新庄 3-9-19 TEL 06-6321-7000

<http://www.santen.co.jp/company/jp/overview/map.jsp>

テーマ「組織適合性の新しいパラダイムを求めて」

当番世話人 一戸 辰夫(京都大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科)

10 時～10 時 30 分 オープニングセミナー：

「HLA-E, F, G update」

司会：石谷 昭子(奈良県立医科大学・法医学)

下嶋 典子(奈良県立医科大学・法医学)

10 時 30 分～12 時 一般演題(1) HLA 基礎

12 時～12 時 50 分 昼食・世話人会

12 時 50 分～13 時 総会

13 時～14 時 テクニカルセミナー：

「HLA 抗体測定法の標準化を目指して」

司会：丸屋 悦子(NPO HLA 研究所)

14 時～15 時 15 分 一般演題(2) HLA 臨床・移植医療

15 時 15 分～17 時 シンポジウム：

「同種免疫応答にかかわる non-HLA immunogenetics」

司会：一戸 辰夫(京都大学医学部附属病院・血液・腫瘍内科)

屋部 登志雄(東京都赤十字血液センター)

村田 誠(名古屋大学医学部・第一内科)

塚田 順一(産業医科大学・第一内科)

17 時～18 時 特別講演：

司会：佐田 正晴(国立循環器病センター・再生医療部)

「がん免疫療法への新戦略」

西村 泰治(熊本大学大学院医学研究科免疫識別学教室)

18 時～ 懇親会